

# あごら

MINI (28号)  
1979年5月10日発行 ¥100 円25

〈女と男〉のミニ雑誌〈あごらミニ〉 ●何でも言える

●何でも書ける ●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉

●あなたの声を待っています。みんなでつくる〈あごら〉

## 「個」への再スタート

石川美智子

「一人でいるより二人のほうが、より大きな生きる原動力になる」と確信し結婚したのが、今から五年前。子らの出現により、たちまち「生活」という現実がどつと押し寄せ、ほんわかムードは消え去った。東京での職を捨て京都にきたため、選択の余地なく思ってもみなかった「主婦」へと追いやられた。誰一人知人のいないこの土地で、核家族、母と子の密着生活というおさまりのコースに入る。長く暗いトンネルの中でもがいているうち、時間だけが確実に時を刻み、延々と続くように思われた暗闇の前方に光が見えてきた。改めて陽光のもとに照らし出されたとき、すっかり衰弱化している私の姿に愕然となった。「自由」のうま味を味わいつつあった独身のときと、現在との長い空白をどう結びつけたらいいのか……様々な思いが交錯し、さながら、かつての青春のスタートラインに立ったかのように。

この闇の中での悔やしきの蓄積が、生まれて始めて「女」という意識を徹底して私の中に注入した。どうしてもそこからしか出発できず、こだわらざるを得ない核が否応なく私の精神の根底に宿ってしまった。「どのようにこのマイナスをプラスに換えられるか」

と思いあぐんでいたとき、高群逸枝の講座に参加でき、彼女の生涯と重ね合わせながら、自己を見つめる機会を得た。ここで、逸枝と同時代の「八木秋子」という人の存在を知る機会を得た。八木さんは八十四歳になられる現在、都立の養老院におられる。「屹立」という言葉がびつたり人のようだ。その手ごたえのある存在性、出会いの感激を得た人の手により、昨年、二冊の著作集が発行された。「近代の負を背負う女」と「夢の落葉に」子を置いて家を出て以来、一時、華やかな場で文章を発表していたこともあったが、以後アーキストとして、実践の道を歩み続けた。その果てしない自己否定は決して止まることがない。今日に至ってもなお、その「生きよう」とする気迫と持続力のすさまじさに圧倒される。二十七歳で離婚した直後の文章「婦人の解放」の中で、女性の自我追求の不徹底さを述べ「誰しも自我を確実に認識すれば、今まで安住してきた自己の全部に、また、あらゆる周囲に対して、奇異の眼を見張ると同時に、火の如き憤りは猛然と自己の内部に爆発せざるを得ぬ」と言う。この大先輩の魂の内奥に触れ、教えを乞いたい思いが湧きあがってくる。著作を読み、その文字の背後にある人間像に迫り、激しく出会ってみたい。

### 今月のなかみ

〈あごら京都編集〉

|                          |                         |          |   |
|--------------------------|-------------------------|----------|---|
| 表紙のことば                   | 「個」への再スタート……………         | 石川美智子    | 1 |
| 意見                       | 主婦の再就職は可能か              |          |   |
| 作原千恵・平田ひと江・飯島行子・仲秋泉・山本純子 | ……………                   |          | 2 |
| AGORAMATE                | 割烹「さつき」を経営する柴田冽子さん      | ……………    | 5 |
| すてきな男たち                  | 集会託児をやる男たちの会            | ……………    | 5 |
| 報                        | 告                       | 京都・おんな便り | 6 |
| あごらのあごら                  | 山本かなえさん・小沢遼子さん当選        | ……………    | 7 |
| 呼びかけ                     | あごら20号記念講演会・あごら全国集会にどうぞ | ……………    | 8 |
| お知らせ                     | 各地のもよおし 女のつどい・女の講座      | ……………    | 8 |

●女性差別をなくすために  
今何をすべきか！

M・ヘック  
B・ウェルケムス共著 柳沢由実子訳  
スウェーデン

## 女性解放の手引

価二〇〇円（送料一六〇円）

原書を読んだときの感動を、わたしは忘れることはできない。何度も何度もこれは本当にスウェーデンのことを言っているのかと疑って、表紙をひっくり返しては日本のことを扱っているのではないことを確かめずにはいられた。これはどなたが置かれた状況は、普遍的なのだと、うなづいた。

女が自由で平等な国は世界中に一つもないと言ってもいい。それでも、そこに住む女たちは、差別に耐え、嘲笑に耐え、抑圧に耐えている。著者たちは、このような現実を見事に分析してみせる。そしてこの現実を変えるために、どのような一歩を踏み出したらいいか、というヒントを与えてくれる。（訳者あとがきより）

●近刊 六月中旬発行予定 予約受付中

E・E・マツコビイ編  
青木やよひ・河野貴代美  
池上千寿子・深尾 凱子・山口良枝訳

## 性差 — その起源と役割

価一八〇円（送料一六〇円）

○お近くの書店にご注文下さるか、定価に送料を加え、書留または郵便振替で直接小社へご注文下さい。

112 東京都文京区目白台3-21-4

家政教育社

電話 九四五一六二六五  
振替東京七二二三八二



~~~~~ 齊藤千代さんを囲んでの〈あごら京都〉例会を終えて ~~~~~

# 主婦の再就職は可能か

昨秋、『あごらミニ』23号を編集する中で、働きたい、仕事を得たいとの意見が、何人かから出ました。働くことで、主婦の状況を突破したいという私たちの状況を再度、とらえかえそう、また、〈あごら〉と〈BOC〉の関係についても、もっと知りたいということで、3月18日、BOCの責任者齊藤千代さんに来ていただきました。



## 私の入口と出口

作原千恵

齊藤さんは、ご自身の今日までの道程を、切々と私どもに語りかけてくださいました。お話の中で「出口がないという言葉は、私は嫌いです」と、そのお人柄にも似ず鋭い愛のお言葉とも思えました。私も人から指摘もされ、自分でも認めながら、家族集団という狭い生活範囲の中で、夫から「できないのでなく、しないからだ」とよく言われ、わけもなく反発したことを思い出していました。

もろもろの雑用を振り切って、女ばかりの集りをつくり、そこでより多くの女性たちの意識変革を願って血の出るような辛苦の末、〈あごら〉の編集出版という一つの事業を軌道に乗せられたという齊藤さんのそんなお話を伺っていて、夫がやはり小さな企業を起こして以来、過去十年余りの、さまざまな考えのくい違いや、いさかいのやりとりを振り返ってみることができました。

収入を得る仕事というものに対する考えの甘さ、女の優先する感情論や視野の狭さ、仕事に対する執念のような粘りの不足、辛抱のなさとか、努力して行動し続けるバカみたいな愚鈍さも必要とか、夫から繰り返し、耳をふさぎたくなるほど意見されました。自分では精いっぱいやっているつもりだし、子育てとか家事労働は棚上げの視点でし、私はそんなふうに見えるたびに、自分だって一つぐらいの取りえはあるものを、と抵抗

の構えてした。

でも、こうして第三者的立場の方から、女が事を起こすとき、十の力をはるかに上回るものが要求されることを知らされて、主婦が社会を認識するのに夫をもつと利用することとか、家裁の調停委員の方が、「主婦は常に爪をいでおく必要がある」と話されていた記憶をたどり、夫への反抗もまた甘えてしかなく、夫の苦勞も自分の無力感も、共に素直に受け入れることが、逆に、自立への第一歩になるのではと、望みをつなぐことができました。

二人でこれまでにやって来たとは、一度だって口にしたことのない夫に対し、自分にもあった一つの取りえが、夫への協力という形になって、今日までやって来たのだと思うことで自分を支えてこれたのだと思っています。

〈BOC〉は、私の一枚の持ち札を生かせ、社会とつながりてくださる、そのような存在だと解釈させていただきました。あるか無しかの小さな可能性を引き出して、役立たせることができれば、それはささやかな自信であつても、次の可能性へのステップにすることができるとも知れません。自信というパスポートが私に何よりも必要で、何よりも得がたいことだと痛感されます。

自分の中に秘める可能性を模索することすら諦めて、封建時代の女の道しるべを割り切れない思いでトボトボ歩まざるを得ない、そんな思いが先に立つ中年層の方々もあるうと思われまふ。ぜひ夢から実現へ、より強力に押し進められ、各地に女だけがくぐる〈BOC〉の窓口が

用意されることが望まれます。が、しかし、受け入れ側の厚い壁を、「優雅でない一人ひとりの仕事への姿勢で」と、強調された斉藤さんのお声が耳に残っています。

## 甦る母の姿

平田ひと江

出産を理由に、保母の仕事を辞めることにしたと告げたときに、念をおすように残念がったのは、そういえば、母だけだった。きつぱりと語られずに、くぐもつた、母のことがば、四年経て、このごろ想われてならない。

もとより、「世間」という価値の基準はあっても、「社会」ということはほとんど頭にない、まして「女の解放」などは、無縁に暮らし続けて来たひとである。仕事に対する母のこだわりは、それが女の自立のために必要だから、ではない。いや応もなく働き続けて来た、素朴な実感に根ざしている。たやすく働くことを放棄する娘を、そんな風でよいのかと、いぶかる。

開業の産婆を本業とし、和裁を内職とし、たしかに働けるだけ働いて来た。お産の迎えが来ると、商売道具を自転車にくくりつけ、息せききつて駆け出す母の後姿の、ヒーンとはった余韻。疲労をにじませながらも、なごんだ表情の帰宅。ふいと途切れたねむりのがすか向こうに、針運ぶ夜なべの気配。働く母が、年経るごとに、甦る。

ともかく働かなければ、父の稼ぎだけでは、家族を養うことは出来ない。父は

妻をそんな風に働かせねば養い切れないそれを、ふがいなさとして切なくかんでいた。それは、酔いにまかせ母にあたることで屈折する。「どんなに働いても、借金しなければどうにもならないこともあった。だけど、そんなことは苦ではなかった。あのひとと腹をわって話せなかったことが、つらかった」と、子どもを産んだ私に、母は言った。

いまは、父と二人の生活で、経済的に困ることはないけれど、市の保健課の委託業務などをやり続けている。「自分で働いたお金は、ありがたいものだ。仕事をやり続けて来ているんなことがあったけれど、本当によかったとつくづく思うよ。六十過ぎてても必要とされるし」。ぼつり、ぼつり話しながら、したたかさとしんじさをただよわせていた。

ひるがえって、いま、「主婦の再就職は可能か」と、そんなことをテーマにしなければならぬ私の意識が、どこかぼつかりと軽く感じられてくる。なんともひ弱い。いったい、他人の稼ぎで食べている身とは何だろう。働けないのか、働かないのか。働く現場から遠ざかっていることは何を落ちこぼしていることなのだろう。いま私にとって、働くことは？ たしかに、生命を孕み、産む性が、負の条件にしかならない労働現場の状況は幼い子どもを持つ女の再就職をも困難にしている。それでも、働くことが生きていく上で欠くことのできない重たさとして迫って来て、なお、主婦専業を暮らし続けることはできない。現実を見据え、変えつつ、ささやかでも具体的な一歩を踏み続けたい。

## 再就職をめざして

飯島行子

男であれ女であれ働くのは当然だとずっと考えていた。まして子育てだけが人生なんてまづびらだと思い、決して自分の母のようにはなりたくないと思いついてきた。にもかかわらず二人目の子どもができたとき、病氣になって保母の仕事が辞めてしまった。長期の病欠を取ったあと、仕事を辞めたくはないという思いと、やっとしんどさから解放されるというホッとした気持ちが混ざりあっていた。耳鳴りがひどくて子どもの集団に恐怖を感じたのも確かだ。

そして三年。日常生活に押し流され自信喪失、時には自己の存在すら否定したくなるような子どもとの閉じ込められた日々。今は子どもが小さいから仕方ないとあきらめながらも、胸の中でくすぶり続けてきた何か。

仕事をしたいと願うのは夫や子どものためではなく私自身のためであり、たつた一度の人生を、自分自身を生きたい、個として燃焼し尽くしたいという欲求にほかならない。経済的自立が女解放の基点でもあり、いつまでも養われる身に甘んじていては男・女の関係は変わらないと考えるからでもある。もちろん家事労働を含めての男・女の意識変革も重要である。女であっても仕事に生きがいを見い出せるように願うからで、安上がりで単

純労働など狭められた職場にしか女の働く場所がないという現状ではあっても、途中で仕事を辞めてしまった反省も含めて、多くの女が働く必要があると思う。子連れでしかも体力的にあまり自信がないので早急に就職の見通しはたない。しかし持続性のある仕事を第一に考えた。

働き、子育てをし、好きな本も読みたいという幻想を持っているが、ごく普通の事がなぜ叶わないのだろうか。ひたすら子どもが大きくなるまでと待つわけだが、日常を見わたすと、子どもを取り巻く状況ひとつにしても、物質だけは氾濫しているが、公害、教育など、深く複雑な問題はかりで日々安んじとしていられない。マスコミを通じて企業のもうけ主義に乗せられるのはもうごめんだし、どこかできつぱりとした態度を取っていかないと何でもかでも毒づけされてしまう。そのためには私自身が、より確かな社会を見つめる目を持ち続ける必要がある。そして自分の置かれている中で思考し、行動すること（今は集りに参加するぐらいの意味しかないが、遅々とした事であっても、決して無駄にはならないし、何を始めるにしても遅すぎることはない。より人間的な生活を求めている子育てを含めじっくり構えようと思う。仕事をしたいという願望だけに終わらせないと。

斉藤さんの話を聞いて、自分の信念を持って地道に歩いていくこと、日々の積み重ねの大切さを教えられたように思う。私自身たとえ小さな思いではあっても、いつまでも燃やし続けたい。

# 仕事離れに向かつて いる若い友達へ

仲秋 泉

私は下宿暮らしの二十三歳。共同保育所で保育を勤めて七か月、この四月からは公立保育所でアルバイト中。

おもしろくないと言いながらも事務職に就いた私の友人たちは、そろそろ仕事離れを始めたようです。今頃から右往左往しだした私に、ずっと仕事を続けるの？と聞く彼女たち。私は「そりや食べていかなあかんから」と答えるときも、「おもしろいもんネ」と答えるときもあります。どちらも私の実感ですから。

彼女たちは羨ましいような給料を得ていて、蓄えの目途がついてきた様子。仕事のことを話してもらいたかったのに、どう切り出しても、退職の頃合について聞かされるばかりです。だって、誰が何と言おうと、「アア」結婚のセリフに頻がそまつているのですから。

無論それは決して人ごとではなく、私も仕事を捜し、就いた仕事でまた迷い、ああしんどいと思う日は先々の夢に寄りかかりたくなりました。仕事が、身の落ちつくまでの繋ぎに見え、下宿が仮り住まいに思え、人づき合いまで……

ところが保育になつて数か月した頃、急に気持ちが悪転してしまいました。「仮り住まいに繋ぎの仕事？ 冗談じゃない、今の生活が現実にはアタシの生活だし、も

う仕事をやり出しているんだよ。そう感じられるように変わったのは、きつと働いている日々が私に与えてくれる実感、手こたえのせいでしょう。といっても、保育こそ私を一番生かせる仕事だと信じこめたわけでも役割を認識したわけでもありません。ただ保育所と子供たちに慣れていた時点で、ああしてみよう、これは保育さんに話してみよう、こういう事はどうなんだろう、というのが毎日湧いてくる、そういう自分に気づいただけのことです。思いつきで終わらせずに継続して考えてゆけば、具体的な働きかけの場を生かせる、それは楽しいことです。未熟なりに自分のヨミを持たなければいけません。その分結果は自分と子供たち保育士たちの間に返ってきます。実感というのはそのやりとりの中で生まれたものでしょうね。好意的に受けとめて下さる保育チームだったことのほか、薄給・身分保障なしの待遇で、仕事の中味以外にここへ勤める「理由」が見つけれられそうになかったことが、私には幸いしたかもしれせん。

何かしたいと思う方は多くても、これをしていと言え方はどれくらいでしょう。か。「何かを」という欲求は大切ですが、問題はその欲求を具体化させる方法とセンスのようですね。まだしばらくアルバイト暮らしの私にとっては、仕事の中でつかみ取るものしか蓄えられるものはなさそうです。次へ向かう工夫は、今の毎日からしか生まれそうにありませんし、それならば、仕事を続けることに就いても、問題と感ずることを見続けるこ

とに就いても、何より持続力をもちたいと思うばかりです。

## 「主婦の再就職」について思うこと

山本 純子

私は「主婦の再就職」と聞くときに、なにかしら、いつもある種のひっかかりを覚えてしまうのである。それは、「主婦の再就職」という言葉が、マスコミ等によって好んで使われ、取りあげられていると同時に、それが一つの固定概念として作りあげられ、作用してきているということに対してである。今や、「主婦の再就職」は、一般的風潮としても、あたかもそれが、結婚し、子供を持った女のたどるべきコースとして、大いに幅をきかせていることは事実であろう。

いわゆる女のライフ・サイクル論なるものであり、「主婦の再就職」はその中に位置づけられている。ライフ・サイクル論の大前提は、「男は仕事、女は家庭」と考えてよいと思うが、そこでは、なぜ「主婦」が「再就職」なのか、なぜ中断しなくてはならないのかは、大前提のゆえに問われる必要がない。けれども、女が子育てをし、家事をするものだといふ決めつけられ、中断を余儀なくさせられているのは、どう考えてみてもおかしいのではないかという疑問を、そしてこの疑問以前に、私や私の周囲の「主婦」の多くは、子供と二人っきりで家に閉じ込められ、ほとんど自分自身を失っていくよう

な、あのやり場のない気分を持ち続けてきているのである。

\*

「主婦の再就職」の場合、実際問題としての就職口のことを考えてみても、利潤と効率のみを追い続ける企業にとって、主婦パートほど安上がりで都合のいいものはないから、正規雇用の口などはラッキーとしが言いようがない。また、女の側にしてみても、保育所の保育時間のことなど考えに入れば、女だけが負うべきことでは決まてないが、いったん「専業主婦」になったものが、家事や育児その他の役割分担を含めて、男や周囲との関係を改めようと努めても、一朝一夕に変えることは、なかなか困難である。いくら、フル・タイムで働きたいと思っても中断した場合は一層のこと女の側が、働ける条件を失っていく場合が多い。

\*

女の生きる姿勢と現実的問題のなかで、「再就職」にしろ何にしろ、私たちに望まれているのは、言われ続けてきていることではあるが、やはり、自分なりの「自立」への模索ではないだろうか。生きるためにあたり前のこととして働き、パンのみに生きるにあらず、精神的・社会的にも十分に生きている心地のする女の生の実現への模索は、延々と続くだろう。「自立」にむけての女の一步が、すべての人々の解放にもより近づくものであるような、そんな社会は、ユートピアの如く手の届かぬものなのかもしれないが、それでも、なにやら「主婦パート」に出かける今日・此の頃である。

# すてきな男たち

## 集会託児をやる男たちの会

連絡先 (075) 331-9073 山田ひろやす  
(075) 781-3219 武藤 章

写真と文 塚崎 美和子



### —AGORA MATE—



割烹「さつき」を経営する  
柴田 冽子 さん

京都のと真ん中、河原町の雑踏から木屋町へ抜ける通りに、京の町家風の雰囲気をもし出している柴田さんのお店、「さつき」ビルがある。

粋な格子戸をはいると割烹のカウンター、二階はお座敷、地下にはスナックがある。「自分の足で立ち、自分の頭で考え、自分の言葉で話し、自分で食べていく」とを信条に十八年、働き続けてきた彼女、ここは根城。

「お客さんも店を選ばはりますけど、うちの方かてそおどす。人間は生まれる時

は選べしまへんけど、生れてからは選ばれるより選ぶ人生やなけなえ」

五人姉弟の長女。父親は中学一年の時病死。高校を出て就職難を体験、歯科医院で八年間受付を。そして一念発起、親友と共同経営で喫茶店を。その後、お互いに独立して現在に至る。

「人間相手の仕事、たのしいおすなあ、いろんな人とも出会えますし、一人一人とじっくりお話もできて、ええもんどっせ」昭和九年生まれ。結婚は？「そら、若い時はしよと思ふたことも何回もあり

ました。そやけど今まで大事に大事に一生懸命育ててきた商売や人間関係を全部捨てていわゆるお嫁にいくてなごと、うちにはでけまへんとした。答えは〇どしたなあ」現在の目標は、未婚で母になること。女の板前を育てること。女が働くことにも生きがいを感じることでできる職場を。地を這うように翔んでいたはずが、精神にまとわりつく衣を脱ぎ捨てたらその分軽くなつて、いつしか「自由」の高みを悠々と翔んでいた、と思わせる人である。(稲垣良代)

一九七七年十一月十六日、京都で「女の祭'77」が催された。その時、集会をサポートし託児を引き受けたのが、この異色グループ誕生のきっかけという。

「子供を育てる責任は男にもある。子供について学びたい。子供のいる女の人が集会に出られるよう援助する」という三点が、この会の六人の男たちの確認点である。女が家事を、男は仕事をきちんとやっておれば、家内安全・家事円満という図式にあらわれた男の生き方こそ「資本」の要求する「男の生き方」ではないか。そして、意識的・無意識的に女を犠牲にしてきたのではないかとの真摯な自己批判をし、武藤章さん(24歳)は「協力したりされたりするけれど、甘えたり甘えられたりしない。援助したりされたりするけれど、犠牲になつたりなられたりしない。平等に互いの主体性や存在を認めた上で、ほんとうの人と人との関係を結びたい」と言う。また山田ひろやすさん(30歳)は「男は世の改革のための

集会に多くの人間を集めることに気をくばるけど、自分たちの視点に女の人や子供を抱えた人たちが入っていなかっただじやないだろうか。僕はリブに出会い、女の人から教えられることはかりです。しかし、子供を預ける女の人からも好奇の目で見られることがあります。そんな時とても淋しいし、不幸な時代だなあと思う」と語る。「価値観の固定化は自分自身を閉ざすと思う。いま、料理を勉強中」とは谷口原二郎さん(29歳)。

ともに男女の役割分担に男の側から異議申し立てをし、自分のできるところから行動し、人間らしい生き方のできる社会を目指そうというすてきな男たちである。集会時に託児する女性のつれあいにも働きかけていかないと便利屋になつてしまふので、外へ向かつてアピールしていきたい、と現在アンケート作りを考案中。メンバーはほかに、エド・キンチー(29歳)、相沢真(31歳)、高瀬喜久男(27歳)さんら。

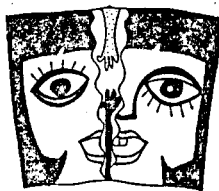


# 京都・おんな便り 北村明子

## ●おんな解放 連絡会・京都(お解連)

旗挙げ集会より早や半年がたちました。がむしゃらであったお解連の動きにも、方向の具体性がみえはじめ、その活動は二本の柱に集約されました。一つは婦人会館建設を進めること、あと一つは京都市行動計画に発言していくことです。

それらの活動は五つの分科会に分けられました。それは労働・教育・家庭・福祉社会参加(女のスペースを考える・婦人会館を創る等)です。これら分科会においては、個々人が抱えている問題を解決していく糸口を見つけ出していくことと共に、市行動計画・婦人会館の中味に対して、何をどのようにしたいのか各分科会ごとに、確かな提言を出し合っています。今後の活動を期待します。連絡先はシャンバラです。



## ●シャンバラは減びず!

京都で唯一の女のスペース・シャンバラは、二月をもつて閉店という宣言をしてきましたが、それでも何とかできないものかという思いを持った女たちが集まって、システム・運営の建て直しをはかり、この五月より再開店することになりました。これからは女たちのフリースペースとして、より多くの人たちに情報を提供し、シスターズ(会員)による自主企画を催し、一人でも多くの女たちにかかわってもらえるスペースを作って行こうと張り切っています。女に対するすべての偏見に立ち向かっていこうとする女たちのトレーニングの場として活用していきたいと願っています。もちろん、前途多難ではありましたが、シャンバラの火を消すな!女たちの火を消すな!の合言葉で頑張っています。シャンバラ・シスターズに加わって下さる方を広く求めています。申し込みはシャンバラまで……。

## ●労基法改悪

### 反対実行委員会

さる四月八日に開かれた第二回労基法

改悪反対討論会は、労基法の歴史、労基法研究会報告の出された経済的背景、改悪と国際婦人年・行動計画との関連、改悪と女の体などをテーマに、それぞれレポーターの発表ののち討論に移ったが、資料など難解な専門用語の続出などのためか活発な論議にはならなかった。男性による情勢分析をかりて語るといふ従来の学習会方式から抜け出すにはどうあるべきか、かくかくしかじかのゆえに反対!といった客観主義的発想でなく、女が主体的な行動を組むための方法を探りて求めていこうなどと話し合い、その後の実行委員会では女の問題を見据えた「改悪反対運動のすすめ方」や、女性労働の質をとらえ直してみることも含めて「労働における真の平等とは何か」などについて本音のところから語り合える討議をしていくことにきまつた。第三回は五月二十日、午後二時より京大東大友会館において。詳細は、シャンバラへ。

## ●「女たちの映画祭」を

きっかけに……

今年の八月「女たちの映画祭」が再び催されます。今回は全国組織のキヤラバン隊をくみ、各地で上映することになりました。これをきっかけに自分たちでも映画を創っていかうとする京都の女たちがあつまって「フェミニスト・フィルム・グループ」ができました。みんなカメラを持つのは初めてなのですが、女はメカニクに弱いという神話を打ち破るため

にも、必死にカメラと格闘しています。映画は、より多くの人たちに言葉だけではなく視覚からも同時に訴えられるという点で、女たちが運動の一環として手に入れた方がよいメディアです。しかし、いざ創る段階になると難しい問題ばかりが出てきますが、とりあえずドキュメントの形式を取り、女の動きを撮りまくっているのです。全国でもこんなグループが次々と出て来て欲しいものです。連絡先はシャンバラです。

## ●精華短大(京都)に 「女性学」講座が!

アメリカで起こったリブ運動の中から女性学は生まれてきました。男性を軸に組み立てられている学問領域では、女は除外されるか、または副次的な位置におかれています。こういう学問のあり方を女の視点から見直していくことと、女の側から女について見直していくことが女性学といわれます。この講座を担当される同大助教授の藤枝澄子さんは、「両性の平等は憲法で保障されているものの、建前だけで、現実にはさまざまな形で不平等や差別が幅をきかしている日本の現実の中で、女として、人間として生きることはどういふことなのか、働くということはどういふことなのか、女の過去・現在をとらえて考えていく場になりたい」とおっしゃっています。女性学は、既存の学問に対する大きな問いかけです。

(4月9日付 京都新聞より)

7



## 〈女のつどい・女の講座〉

| 日       | 時           | テ                                                                   | マ | 会                  | 場            |
|---------|-------------|---------------------------------------------------------------------|---|--------------------|--------------|
| 5月7日(月) | 19:30～      | あごら武蔵野・例会                                                           |   | 東村山福祉センター          |              |
| 8日(火)   | 18:15～19:45 | よが教室 (毎週火曜日 入会金5000円 講習料1と月4000円 問い合わせ 402-1604平松) <独身婦人連盟>         |   | すべーすJORA           | 03-203-6022  |
| 9日(水)   | 18:30～      | あごら21号編集会議                                                          |   | あごら読書室             | 03-354-9014  |
| 10日(木)  | 15:15～16:45 | よが教室 (毎週木曜日 入会金5000円 講習料1と月4000円) <独婦連>                             |   | すべーすJORA           |              |
| 11日(金)  | 19:00～21:00 | 小西あやのでんぐりかえ史 <JORA>                                                 |   | すべーすJORA           |              |
| 12日(土)  | 13:30～17:00 | 平等法実現のために語り合おう連続討論集会No.1 「男女雇用平等法はなぜ必要か」 <私たちの男女雇用平等法をつくる会 (仮称)>    |   | 東中野地域センター          | 03-364-6677  |
|         | 15:00～      | 水田珠枝『女性解放思想史』出版記念会 <あごら東海・国際婦人年あいの会・あいち女性研究者の会 共催>                  |   | 城山会館(地下鉄本山下車)      |              |
|         | 19:00～      | 女と男の井戸端会議 <ホビット村学校>                                                 |   | ホビット村              | 03-332-1187  |
| 13日(日)  | 13:30～16:00 | 「回教文化圏における女性」講師 片山もとこ氏 ゲストスピーカー エジプトからの留学生 <日本女性学研究会>               |   | 京大会館               |              |
|         | 19:00～21:00 | JORAアマチアライブ (持ち時間10分の自作自演会、何でも可)                                    |   | すべーすJORA           |              |
| 15日(火)  | 18:15～19:45 | よが教室 <独婦連>                                                          |   | すべーすJORA           |              |
| 17日(木)  | 15:15～16:45 | よが教室 <独婦連>                                                          |   | すべーすJORA           |              |
| 19日(土)  | 14:00～17:00 | 「男と子育て」 <国際婦人年をきっかけとして行動する女たちの会・定例会>                                |   | 東中野地域センター          |              |
|         | 19:00～22:30 | 女のパーティー <まいにち大工>                                                    |   | すべーすJORA           |              |
| 20日(日)  | 13:00～16:30 | 結婚の意味を問う継続討論                                                        |   | 豊島振興会館             | 03-987-3775  |
|         | 13:30～15:30 | あごらミニ28号合評会「主婦の再就職は可能か」 <あごら京都・例会>                                  |   | シャンバラ              | 075-821-3579 |
|         | 19:00～      | 冒険少女クラブ 冒険少女たち集合                                                    |   | すべーすJORA           |              |
| 22日(火)  | 13:30～16:00 | ニコニコ離婚講座 講師 真ひろ子「離婚とは？」 金住典子「財産の分与と分割」                              |   | 青山ラ・ミアビル7 Fイベントホール | 03-499-6248  |
|         | 18:15～19:45 | よが教室 <独婦連>                                                          |   | すべーすJORA           |              |
| 24日(木)  | 15:15～16:45 | よが教室 <独婦連>                                                          |   | すべーすJORA           |              |
|         | 18:30～19:30 | 平等法実現のために語り合おう連続討論集会No.2 「保護と平等について」 <私たちの男女雇用平等法をつくる会 (仮称)>        |   | 東中野地域センター          |              |
| 25日(金)  | 18:30～      | 「2年目にあたって今後の例会内容について」 <あごら北東京・例会>                                   |   | 婦人共同法律事務所          | 03-985-3308  |
| 26日(土)  | 14:00～16:30 | 婦人民主クラブ歴史講座「植民地と女」講師 森崎和江                                           |   | 赤坂公開堂              | 03-402-0184  |
| 27日(日)  | 18:00～20:00 | コンサート・触私今 ①演奏 水玉消防団 ゲスト 中山ラビ <JORA>                                 |   | すべーすJORA           |              |
|         | 20:00～      | ②フィルム デビッド・ボーイ                                                      |   |                    |              |
| 28日(月)  | 10:00～      | 「春闘は零細企業・労働者にプラスか」講師 愛知労働組合評議会婦人部長 館 美子氏 (予定) <あごら東海・例会>            |   | 名古屋婦人会館            | 052-331-5288 |
|         | 18:30～      | あごら北海道・例会                                                           |   | 北海道クリスチャンセンター      |              |
| 29日(火)  | 18:15～19:45 | よが教室 <独婦連>                                                          |   | すべーすJORA           |              |
| 6月2日(水) | 19:00～22:00 | パーティーどん <56番館>                                                      |   | すべーすJORA           |              |
| 3日(木)   | 13:30～      | 平等法実現のために語り合おう連続討論集会No.3 「男女平等を実現するために必要な条件整備とは」 <私たちの男女雇用平等法をつくる会> |   | 未定                 |              |
| 8日(木)   | 19:00～21:00 | 小西あやのでんぐりかえ史 <JORA>                                                 |   | すべーすJORA           |              |
| 15日(木)  | 19:00～      | JORA一周年記念パーティー                                                      |   | すべーすJORA           |              |
| 16日(金)  | 19:00～22:30 | 女のパーティー <まいにち大工>                                                    |   | すべーすJORA           |              |
| 17日(土)  | 13:30～15:30 | あごら20号合評会 <あごら京都・例会>                                                |   | シャンバラ              |              |
| 23日(土)  | 13:30～17:00 | あごら20号発行記念講演会 講師 水田珠枝 映画「子どもを見る目、お母さんの勉強会——監督 時枝俊江」 <あごら事務局>        |   | 新宿文化センター           | 03-350-1141  |
|         | 14:00～16:30 | 婦人民主クラブ歴史講座「戦争と女——ファシズムの嵐の中で」講師 吉見周子                                |   | 先着210名限り、保育あり      |              |
| 24日(日)  | 18:00～      | コンサート・触私今 ①演奏 <JORA>                                                |   | すべーすJORA           |              |
|         |             | ② (フィルムコンサート)                                                       |   |                    |              |
| 30日(土)  | 13:30～      | 平等法実現のために語り合おう連続討論集会No.4 「平等法を実現するために」 <私たちの男女雇用平等法をつくる会 (仮称)>      |   | 未定                 |              |

〔編集後記〕 人との出会いを、話し合いの場を求めて出発した「あごら京都」その積み重ねの中で、働きたいという思いがクロゾアアップされてきました。斉藤千代さんを囲み、主婦の再就職という問題を話し合う中で、一人一人が過去の職歴をふり返り、現在の状況を点検し、敢えて再就職を頼り気持ちは問い直してみたい。まだまだエンジン始動した人は数少ない、この問い直しの中で、自立への道標が得られればと思っています。(木野村啓子)

|                                           |                                              |                                                 |                                                   |                                              |                                                  |                                                   |                                                      |                                              |                                                |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子<br>01666 65 6237 078 11 | あごら札幌<br>岩見沢市九条西三丁目 山口里子<br>01262 4 6772 068 | あごら北東京<br>川口市芝北町3413 宗久知恵子<br>04822 65 0241 332 | あごら武蔵野<br>小平市小川町1 763 86 丹羽雅代<br>0423 43 6749 187 | あごら京王<br>府中市晴見町3 21 関 和子<br>0423 62 4705 183 | あごら神奈川<br>川崎市多摩区生田4634 沼田千恵子<br>044 933 9079 214 | あごら東海<br>名古屋緑区大高町伊賀殿107 高橋ますみ<br>052 622 4926 459 | あごら京都<br>京都市左京区北白川久保田町36 4 塚崎美和子<br>075 791 4623 606 | あごら阪神<br>尼崎市武庫之荘3 6 木沢みすず<br>06 431 5376 661 | あごら九州<br>福岡市西区笹丘2 4 6 小島豊子<br>092 521 7624 810 |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------|

## 各地のあごら連絡先